

平成 27 年度

事業所名 : グループホーム和や家くずまき

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100129		
法人名	株式会社介護いわて		
事業所名	グループホーム和や家くずまき		
所在地	岩手県岩手郡葛巻町葛巻第29地割字小屋瀬34番地4		
自己評価作成日	平成 28 年 1 月 16 日	評価結果市町村受理日	平成28年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0392100129-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成28年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ドライブ、カラオケ、趣味活動、外食など、楽しみながらそれぞれのペースでゆとりのある生活を送っていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道から少し入った町営住宅跡地に今年度開所した事業所で、人家が点在する自然に恵まれた環境にある。町としてグループホームは初めての施設で、開設に向け検討を重ね、町の支援を受け整備が図られている。法人理念を踏まえ、管理者は、「一人の人として尊重し敬う普通の生活支援」、「丁寧な対応」、「丁寧な話し方・聴き方」など、日頃の取り組みの姿勢を各項目毎に具体例を示し所要所に掲示し、確認し合いながら実践に向けて、不断の努力をしている。ホールには、利用者が作った詩「…俺の死に場所ここだと決めた……誠実な寮父にやさしい寮母……」の額があり利用者・家族の満足度が伺える。今後、実践を重ね、地域と一体となり地域の期待に応える事業所となる事を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム和や家くずまき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の周知は最近始めたばかりである。理念を理解し、支えあいながら共に生きていく場作りに努めていきたい。	開所1年目で事業所独自の理念はないが、法人理念を活かした「穏やかな生活」を旨とし、日々の実践と結びつけて話し合っており全職員の共有化の途上である。認知症の特性を理解した上での理念と一体化した実践に向け、日常業務を通して不断の努力をしている。	利用者、職員共にスタートしたばかりで基盤固めの段階である。「認知症の理解に基づき“楽しい”を実感できるケア」を旨としているが、今後の実践と話し合いを重ねた中で事業所独自の理念をつくることも一考である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の保育園との交流や、地域行事などに参加している。地域からも行事の案内をもらっているため、参加しやすい環境である。	地域との繋がりを重視し町内会に加入、事業所通信を定期的に広く配布し情報発信に努めている。小学校や中学校の体育祭や、地域行事(ふれあい交流会、流しそうめん)へ参加し、保育園児が来所するなど交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設初年度であり、かつ町内初のグループホームであることから、行政や町内会等、各方面に積極的に説明会を実施した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告をしている。意見が出た場合には、サービス向上に活かす様心掛けていく。重要かつ速やかに改善、実施できるものはすぐ実施し、次回会議で報告している。	グループホームは町とし初めての事業所であり、行政・議員・社会福祉協議会・自治会・民生委員など幅広い構成員となっている。感染症予防対策など、具体的で広範な意見や情報が出され、運営に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時や、訪問時に通信を配布するなどしながら、事業所の実情を伝え、情報交換に努めている。	行政とは開所準備段階から連携を密にしてきており、民生委員の見学会も町で企画し実施した。町主催の病院で毎月開催されるケアマネ会議では、町内6事業所が参加し情報交換がなされており、地域連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	冬期間に限っては、外部からの感染症予防と、利用者様の転倒のリスクマネジメントの観点から家族様の了解を得て施錠している。身体拘束、虐待については事業所内に掲示し、常に戒めている。	毎月の全体ミーティングでは、利用者の問題行動とされる言動についてその背景(気持ちや想いを汲み取る)を探ることを重視し、話し合いで深め合っている。言葉による抑制についても職員間で素直に話し合える雰囲気である。なお、冬期は感染症予防対策のため、説明書を掲示して施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今後、社内研修なども行い、学びの機会を設けて行く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない。支援出来る様、学ぶ機会を設けて行かなければならない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図れている。説明する相手は、原則複数名になるようお願いしている。書面で確認しながら、適切、丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や面会時など、意見や要望などをきいている。運営に反映させている。	行事や面会で来所した折に、意図的に話を伺う機会を設け、意見や要望を受け止めることに努めている。「健康で元気に暮らしてほしい」との願いを受け、健康体操に取り組み体力維持を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、意見や提案を発言しやすい環境にあると思う。反映させている。	皆が楽しく仕事できる職場づくりを心がけ、発言しやすい雰囲気配慮している。毎月のミーティングでは多様な意見が出される。冬季間は雪道となり食材購入が大変との声を受け、仕入れ方法をお店に配達依頼をするなど反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の話をよく聞いてくれる。働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初年度であることから、1ヶ月から3か月の間既存事業所において実技等の研修を実施した。今後は、、社内研修の充実にも取り組んでいきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GHホーム協議会等に参加、また町主催の会議を通して情報共有出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。これまでのご本人の生活の様子を理解し、ご本人を知る様心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。要望、意向など十分聞く事が出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。ご本人、ご家族のニーズに応じられている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらからの働きかけは、あまり出来ていない。	アセスメント時の生活歴を紐解き、馴染みの人や場所を把握するよう努めている。自宅を心配し口にする人もおり、外出の行先に組み入れている。理容・美容は地元の方が来所して利用しており、新たな馴染みが出来つつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。個々に合ったコミュニケーションを取る事が出来る様、時には職員が間に入っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は、退去者ご家族の相談実績はない。相談があった時は、支援していく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の利用者様との会話の機会を設ける事で、意向の把握に努めている。本人本位に検討出来ている。	介護度平均は2.1で全員が言葉でのコミュニケーションができています。当初は遠慮傾向が目立っていたが、選択肢を示すことにより意思を出す様になってきている。担当制導入等により利用者の誕生会には思いを活かす等の企画をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全員がサマリやご本人との会話を通して、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かいことも気に留め、他職員に申し送り、情報共有する事で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が作成したアセスメントをもとに、モニタリングを行っている。	居室担当者が作成したアセスメントをもとに、ケアマネジャーがプラン原案を作成し、全職員で検討しているほか、必要に応じて家族の意向把握のため自宅に向く等しながら意見反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録用紙を、一日の流れが解りやすい物にしたことで見やすくなり、情報も共有しやすくなったと思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様個々の趣味、仕事、家族関係等把握した上で、安全上可能な限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の病状、生活面での変化により、地域医療機関、介護施設、行政、町内会に可能な範囲で情報提供又は相談し、利用者様が生活を楽しまれる様支援出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の状態や意向を理解し、支援出来ていると思う。	通院同行は原則家族でお願いする事を入居時に説明しており、職員同行は4割程度である。ホームでの様子を家族に伝えている。殆んどは地元の協力医療機関を利用し、精神科は月1回家族が同行し通院している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関連事業所の訪看を通じて、介護面での助言指導も得られている。訪問看護部との連携も出来ているため、適切な支援が出来ていると思う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、定期的に入院先を訪問し、入院中の状態等情報提供を得られている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ取り組めていない。そう言った場合に備え、ご本人やご家族との話し合いの場を設けて行きたい。	開所初年度平均介護度2.1で、終末期該当者は今のところいない。在宅酸素吸入器利用を2名が使用しているが医療・看護との連携を図っている。利用者や家族の希望があり、看取りを含む終末期対応に向け訪問看護ステーションとの契約など、地域の協力体制等を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成する。全体ミーティング等で勉強の場を設けて行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の避難訓練を実施。地域との協力体制も築いている。	1回目の避難訓練は、消防署員・保安業者立ち合いで、2回目は夜間を想定し実施し、通報や避難についての課題が明らかとなっている。消防署分団長が近くに居住し、地域住民の災害時の協力体制も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いについては、注意を促している。	利用者の多様性を受け止め、人生の大先輩との意識で向かい合っている。「嫌な思いをさせない」を職員同士で心がけ、ことば遣いも命令調で、上から目線にならないよう注意するなど、利用者の人格の尊重、プライバシーの配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。自己主張出来る方ばかりで、かつ日々のコミュニケーション構築に努めているので、利用者様からの希望、苦情を言ってもらえている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望がある方については、自分のペースにそって生活して頂いている。時に、職員の都合で利用者様をお願いすることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要な方には声掛けをするなど、支援に努められていると思う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、おやつ作り、片付けなどにも参加して頂いている。食べたい物などを聞き、献立作りもしている。	献立は利用者の声を取り入れて作成し、食材購入も車と一緒に掛けている。野菜切り、盛り付け、テーブル拭き、片付けなど、それぞれの力量に応じて一緒に活動している。近所から野菜が届いたりしているが、今春は運営推進会議の委員の協力を得て家庭菜園を拡大し野菜作りを計画している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分量の把握に努めている。個々の好みに応じ、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の口腔嚥下体操を、毎食前に実施している。食後の口腔ケアも、声掛けして利用者様自身で出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙オムツ、尿取りパットは使用している。今後も排せつの自立に向けた支援を行って行きたい。	殆んどの方がそれぞれ自分で尿意・便意を自覚し、トイレに行き排泄をしており、今後も今の状態を継続できるよう支援したいとしている。一人の車椅子利用者には定時に声がけをトイレへ誘導している。居室のポータブル利用は一人で、夜間の使用である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入りたい方の希望には浴えている。ほとんどは、入浴日や時間帯など、職員側で決めて声掛けし、入浴して頂いているが、とても良いコミュニケーションの場となっている。	午前・午後、毎日入浴が可能とし、利用者の希望に応じている。毎日入る人もいるが、平均は週2回。入浴を避けたい場合「洗濯物はどうですか？」などの声がけで誘っている。入浴中は職員と1対1で会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援出来ていると思う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用など、細部に渡っての理解には至っていないと思う。服薬に当たっての注意点などについては、厨房等に貼り出している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	釣り、絵画、手芸など好きなことのある方には、自分のペースで過ごして頂いている。こちらから、個々に作業的な事や皆で楽しめるレクなどを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り希望にそえる様に支援している。個々のしたいこと、行きたい所などの把握に努めている。特別な行事の他に、庭の手入れや散歩、日用品の買い物等、様々な場面での外出を促している。	春から秋には施設の花壇の手入れや家庭菜園、周辺の散歩を毎日している。花壇や家庭菜園では運営推進委員の協力もある。また、日は浅いが季節毎の外出のほか外食、釣り、市民イオン、道の駅などへ出掛け、有する力、希望、季節など、時々状況に応じて個々が楽しめる支援に努めている。地区行事へも積極的に参加し交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。自分で管理出来ない方でも、欲しい物があるときは買い物が出来る様、ご家族からの了承も得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の作品を飾ったり、季節感を感じて頂くために、季節に合った物を皆さんで作成したりしている。	ホールには、コタツを備えたタタミの小上がりがあり、休憩したりソファでくつろいだり、TVを觀賞したり思い思いに過ごせる空間となっている。当日は、節分用の鬼の面の塗り絵をしたり、余暇時にはカラオケを楽しんでいた。また、ホールには、小正月行事の水木団子を飾り、廊下には、利用者の作品、三陸の景勝地を描いた風景画を展示し楽しめるなど、生活感や季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ、畳のスペースなど、好きな場所で過ごして頂いている。又、混乱しない程度に定期的に配置換えをして、マンネリ化しないように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物を持って来て頂いている。居心地良い居室作りに努めている。	居室には、電動ベッド、暖房機、エアコン、収納棚等が備えられている。自宅で使い慣れた家具や生活用品を持ち込み、壁面には家族の写真やホームで作った作品が飾られぬくもりが感じられ、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋、棚等、大きな文字と絵で表示し、又表示する位置にも配慮して、利用者様が理解し、自主的な行動のさまたげにならないよう工夫している。		